

砂山地域 住民アンケート 分析レポート

～結果から何ができてくるか？～

平成29年11月

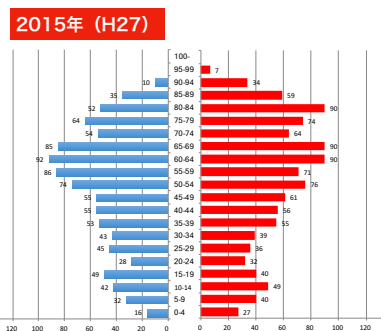
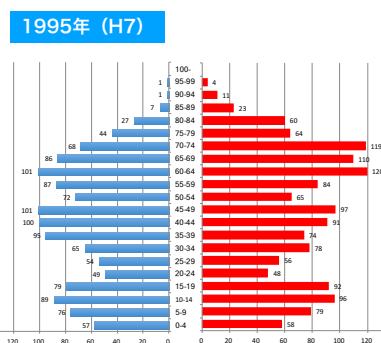
NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

砂山地域

国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

砂山地域の人口ピラミッドの推移

	← 国勢調査データ →				独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	2,688	2,568	2,550	2,398	2,061	1,889
					20年間で23.3%減少	
0～14歳 (人)	455	382	322	277	206	137
					20年間で54.7%減少	
15～64歳 (人)	1,608	1,484	1,386	1,295	1,136	991
					20年間で29.4%減少	
65歳～ (人)	625	702	842	826	719	760
					20年間で15.0%増加	
高齢化率	23.25%	27.34%	33.02%	34.45%	34.89%	40.25%
(再掲) 75歳～ (人)	242	296	479	539	426	423
(再掲) 85歳～ (人)	47	62	135	194	146	195



※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢化率 新潟県平均：29.85%／全国平均：26.63%

砂山地域も急激に少子高齢化が進展している！

中学生以上の全住民アンケートの実施

神林地区の5つのまちづくり協議会が同時に実施。

【砂山地域】

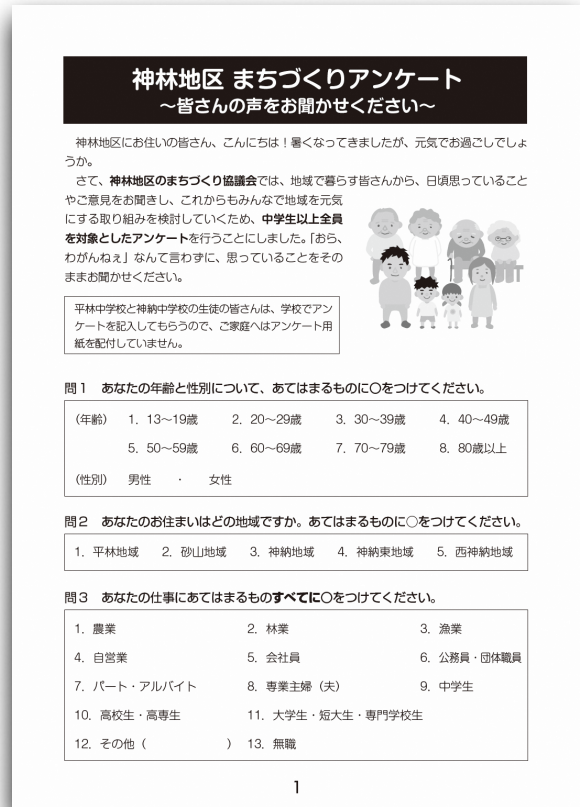
配布数：1,918通

回収数：1,467通

回収率：**76.5%**

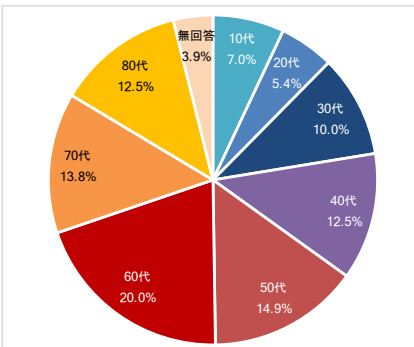
かなりの高回収率！

↓
地域住民の意向がしっかりと反映されているデータである

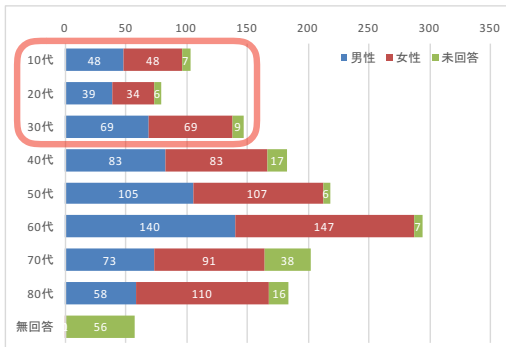


回答者属性

回答者属性（年代別）

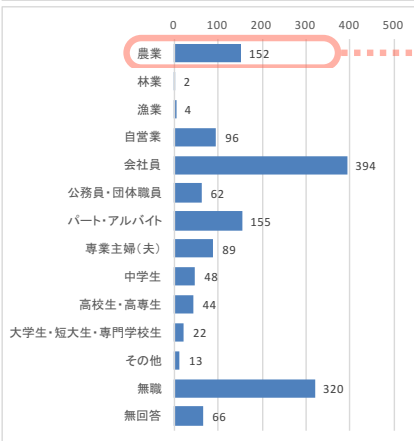


回答者属性（年代別×男女別）



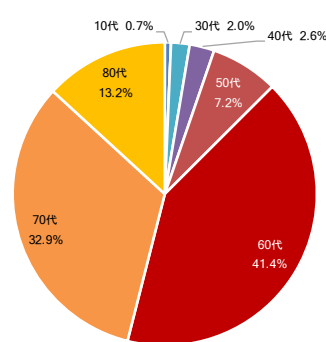
若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。

↓
世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！



回答者属性（職業）

農業従事者の年代構成（割合）



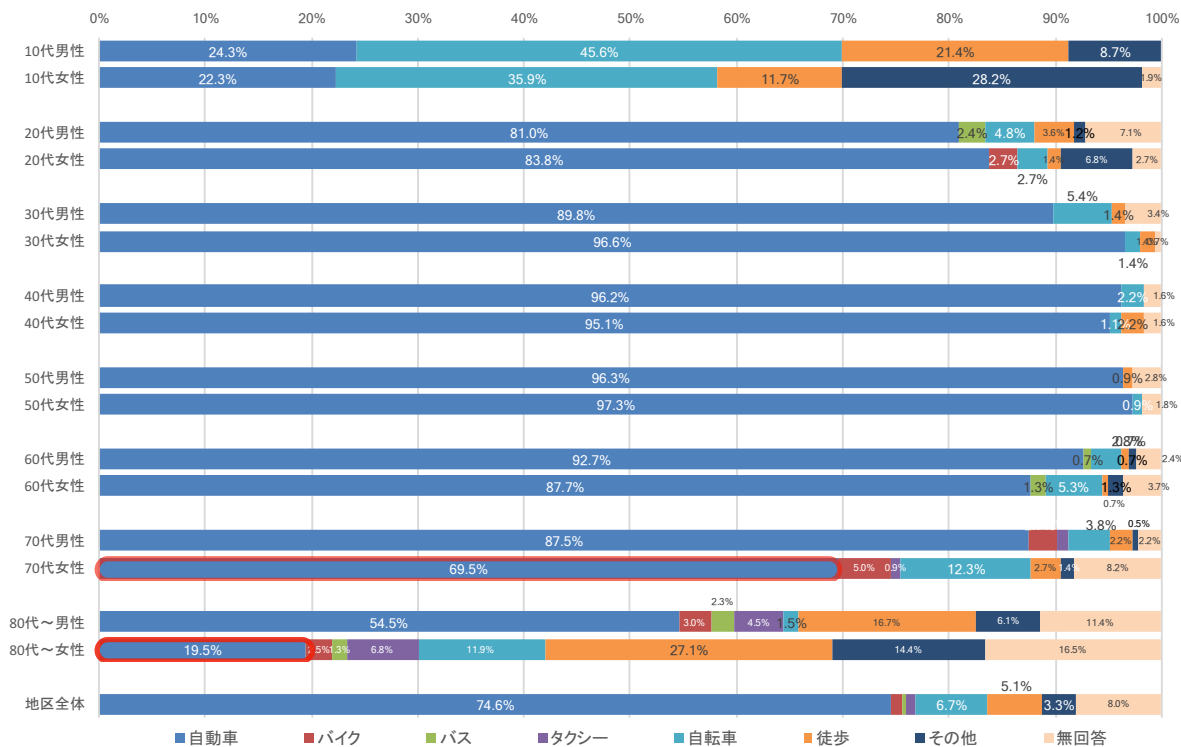
農業従事者の年代構成（人数）

年代	人数
10代	1
20代	0
30代	3
40代	4
50代	11
60代	63
70代	50
80代	20
計	152

農地の維持管理はどうなりますか？

農業従事者の87.5%が60代以上 → 20年後は40人程度!?

年代別・男女別の日常的な交通手段



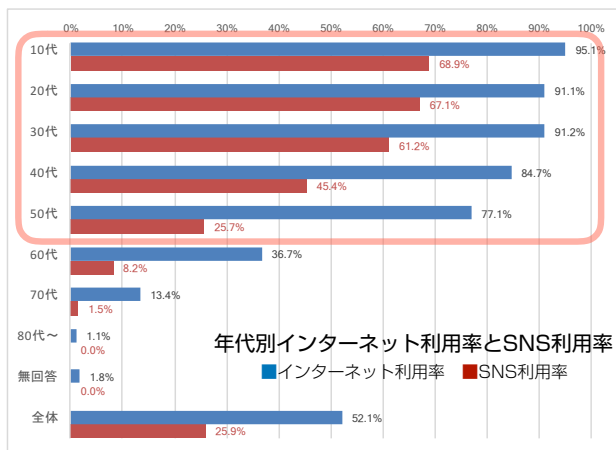
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

80代になると車を運転する人の割合が減少
(70代→80代：男性▲33%、女性▲50%)

(要確認) 80代女性の運転免許保有率

インターネットの利用割合

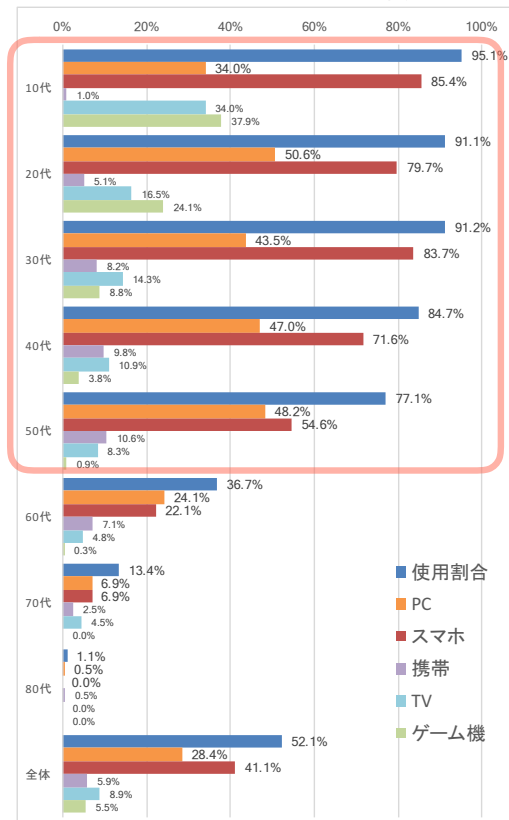
年代別インターネットの利用率



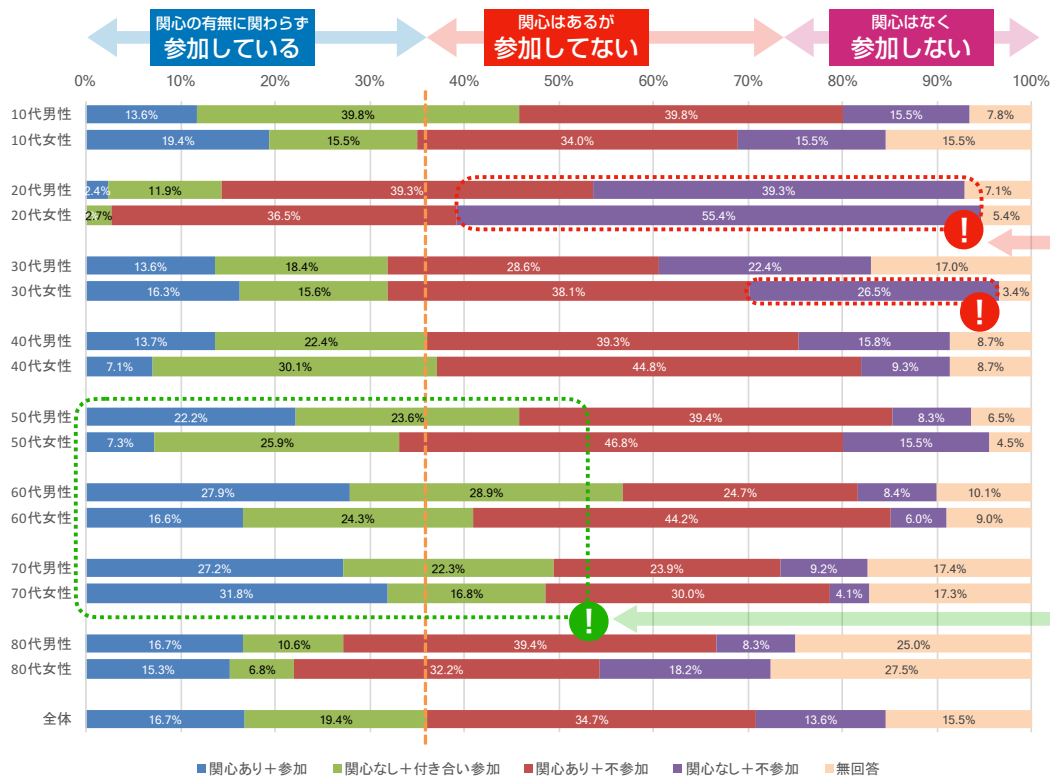
- 全体の半数以上がインターネットを利用。
- **40代以下は約9割**がインターネットを利用。(50代でも約8割)
- **大半がスマホ・携帯**で利用しており、若い世代ほどその割合は高い。
- 30代以下は**3人に2人以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

年代別インターネット利用における使用機器



地域活動への関心



【注意！】
20・30代は男女ともに、「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

20代女性：55.4%
(全世代で1位)
20代男性：39.3%
(同2位)
30代女性：26.5%
(同3位)

↓

将来的に大丈夫か？

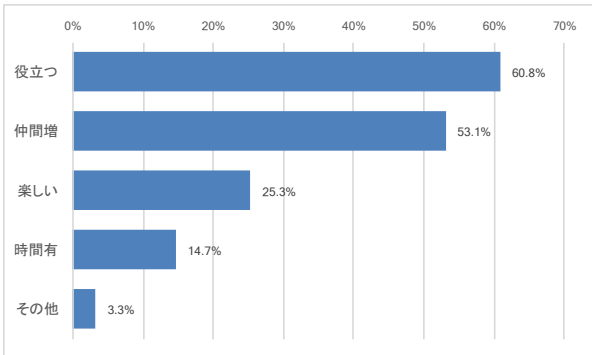
現状は
**50代男性
60代男性・女性
70代男性・女性**
が頑張っているで回っている状態。

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではない

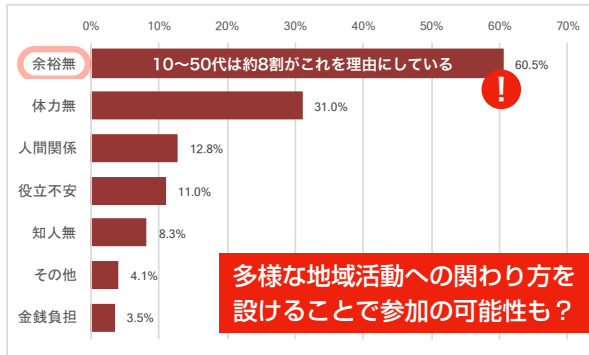
「関心があっても参加していない」割合が最多→こうした人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？

地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答

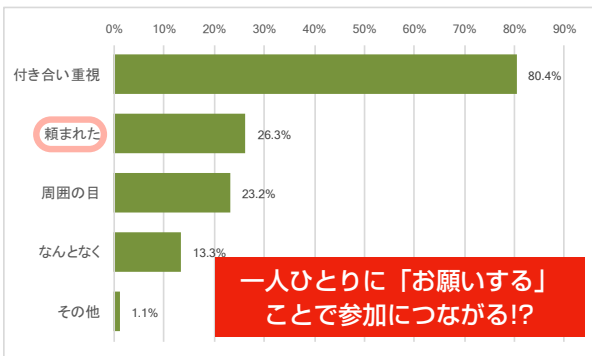
関心あり+参加の理由 (回答数245)



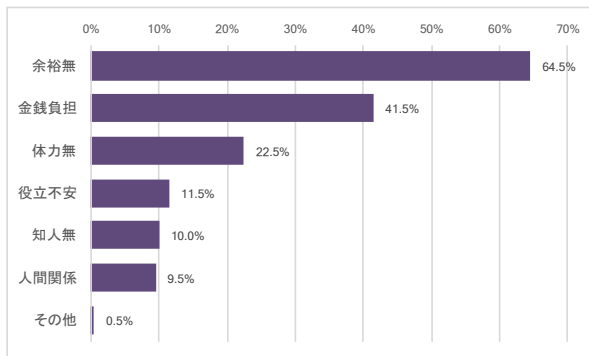
関心あり+不参加の理由 (回答数509)



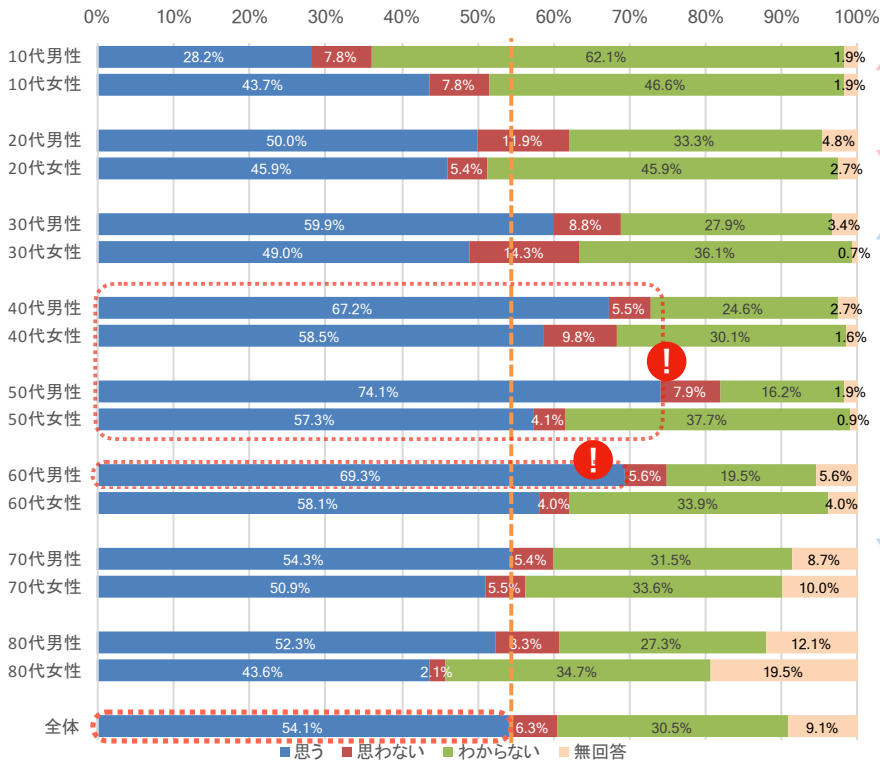
関心なし+付き合い参加の理由 (回答数285)



関心なし+不参加の理由 (回答数200)



女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別)



あまり必要性を感じていない世代

必要性を感じている世代

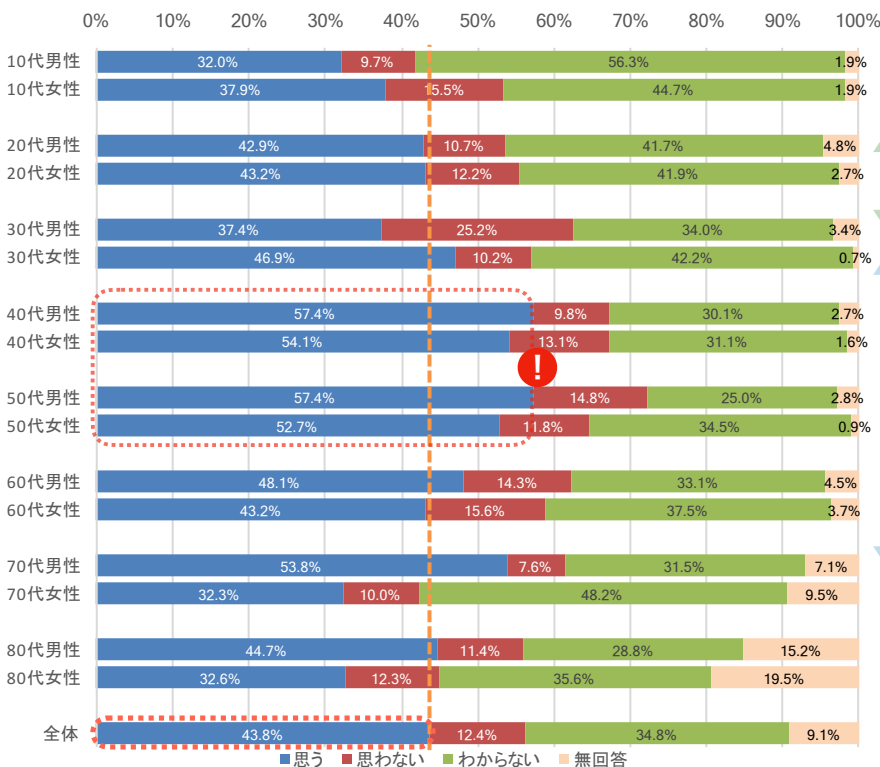
30代男性、40~60代は「必要」という割合が地区平均よりも高く、特に40・50代男性は約7割に達している。

役員を担っている世代(60代男性)も「必要」と考えている割合は高い。

声を反映させる場・機会の充足が必要?!

地域全体では半数以上が「必要」と考えている。

定住受入の必要性 (年代別×男女別)



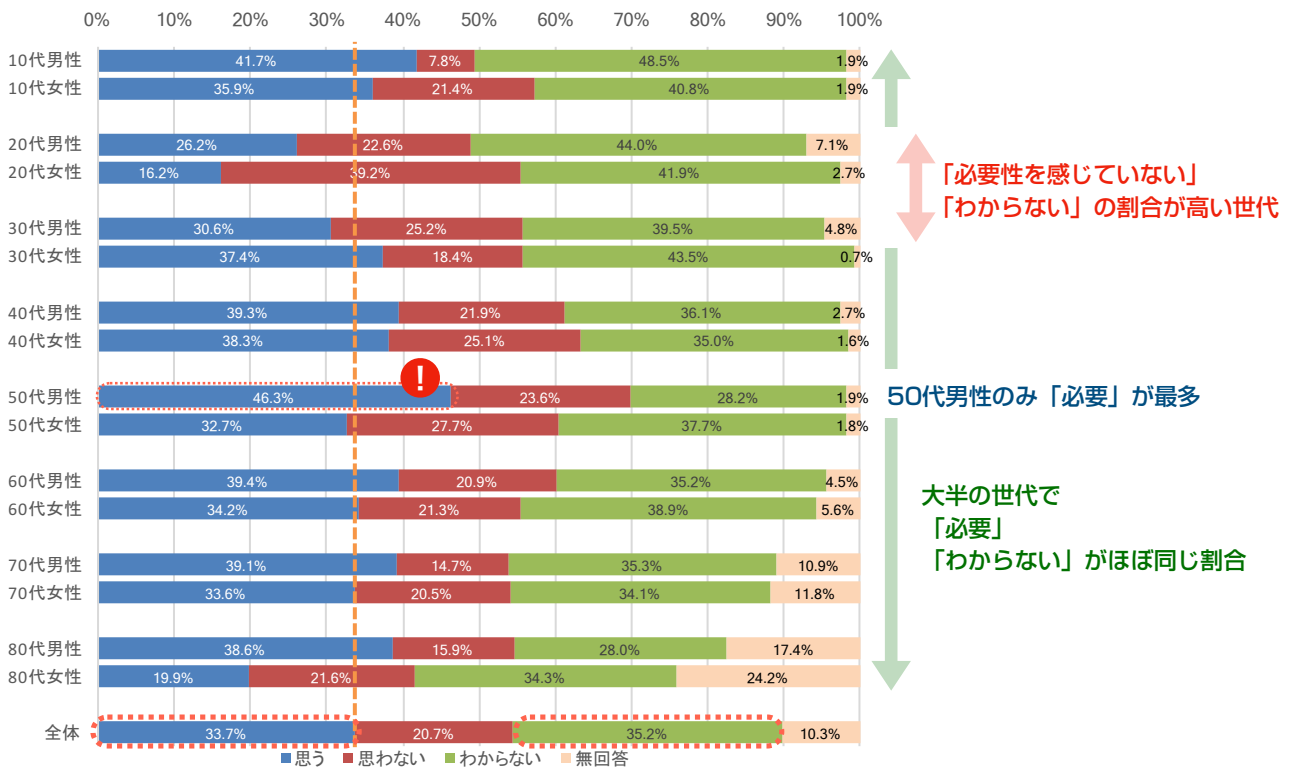
「必要」と「わからない」がほぼ同じ割合。

必要性を感じている世代

特に40・50代は半数以上が必要と回答

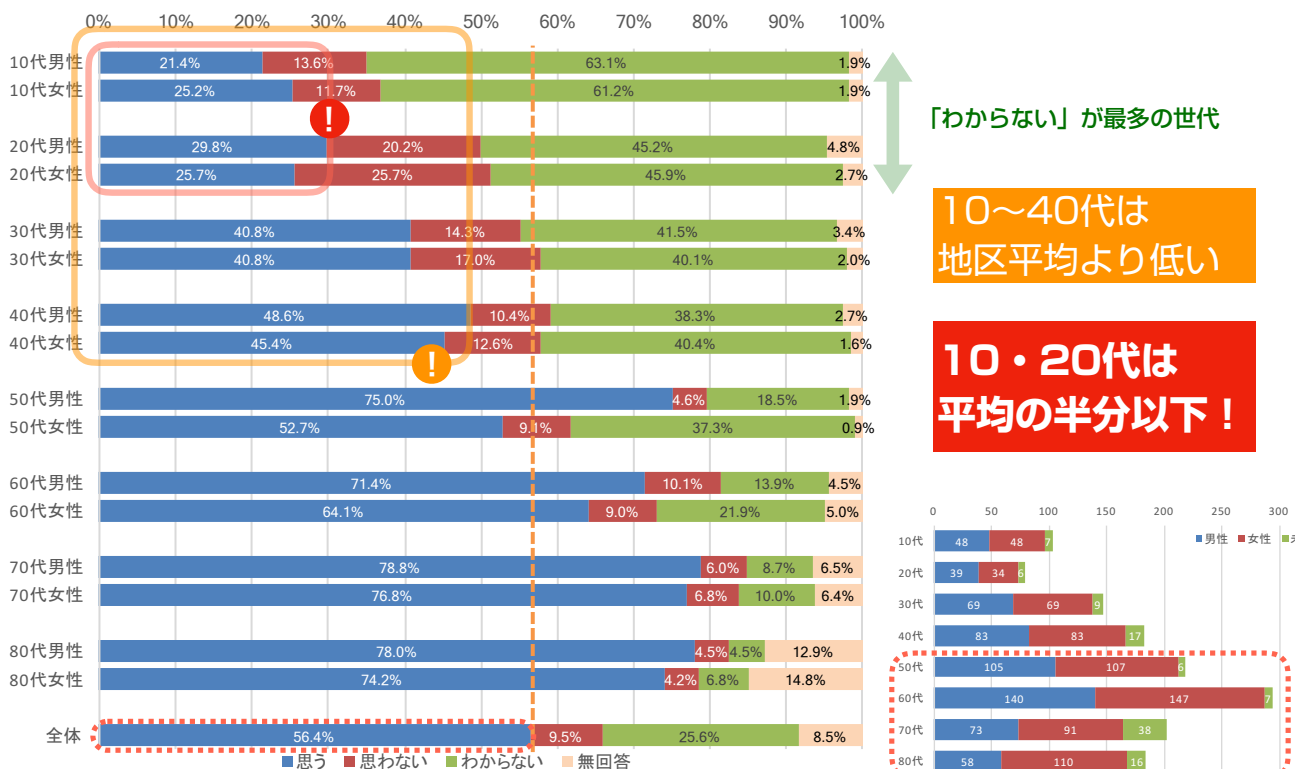
地域全体では4割以上が「必要」と考えている。

他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)



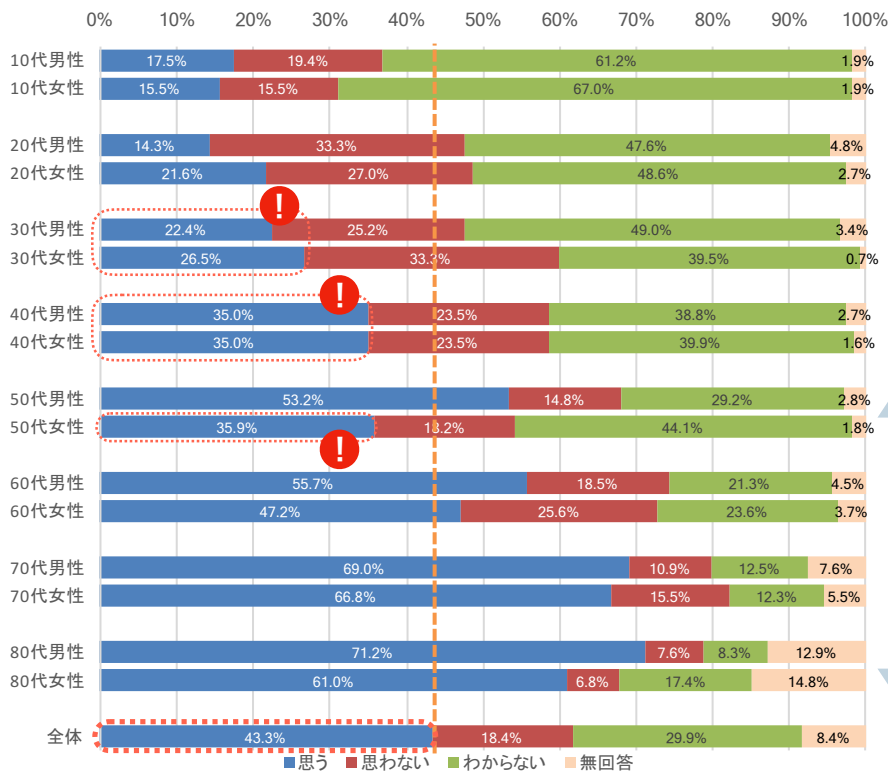
地域全体では1/3以上が「わからない」と回答。「必要」という考えもほぼ同じ割合。

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)



地区全体では「住み続けたいと思う」は半数以上

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？（年代別×男女別）



「わからない」が多い世代

子育て中の親世代（30・40代および50代女性）の「住み続けてほしい」の割合が地区平均以下

10・20代の定住意向（前グラフ参照）が他の世代と比べてかなり低いことと関連があるのでは？

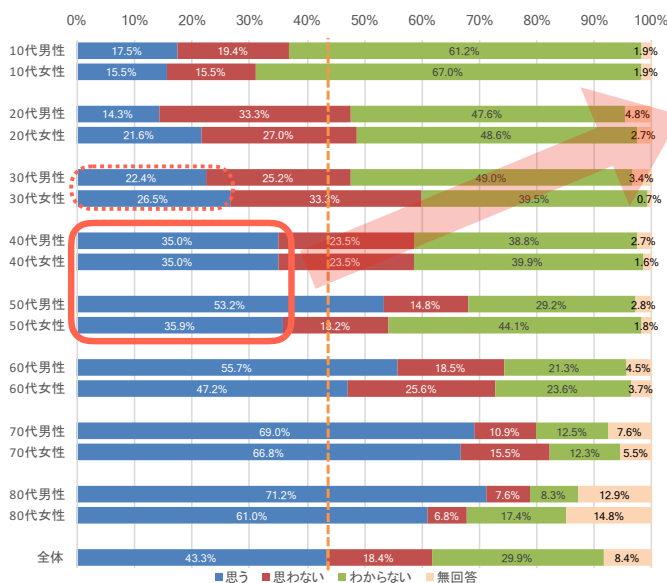
「住み続けてほしい」が多い世代

地域全体では「住み続けてほしい」が43.3%
40代以下は「思わない」「わからない」が上回っている

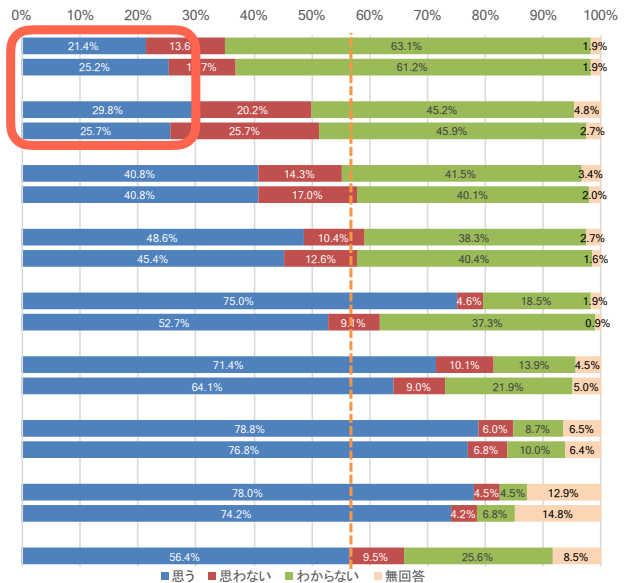
子育て中の親世代（30・40代および50代女性）の「子どもに住み続けてほしい」の割合が地区平均以下

10・20代の定住意向、が他の世代と比べてかなり低いことと関連があるのでは？

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？（年代別×男女別）

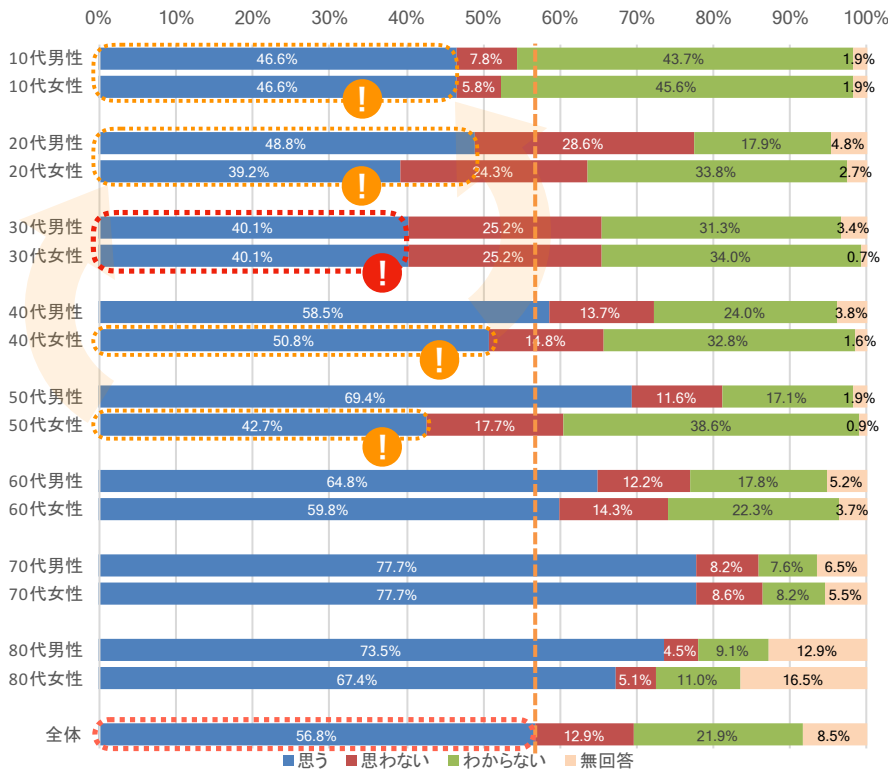


この地域に住み続けたいと思うか？（年代別×男女別）



【注意！】このままだと、人口減少（流出）はさらに進行する可能性はあるのでは？

地域への愛着の有無 (年代別×男女別)



地区平均よりも愛着が低め

30代が最も低い世代!

↑ 心配?

親世代の愛着度が、子に影響?

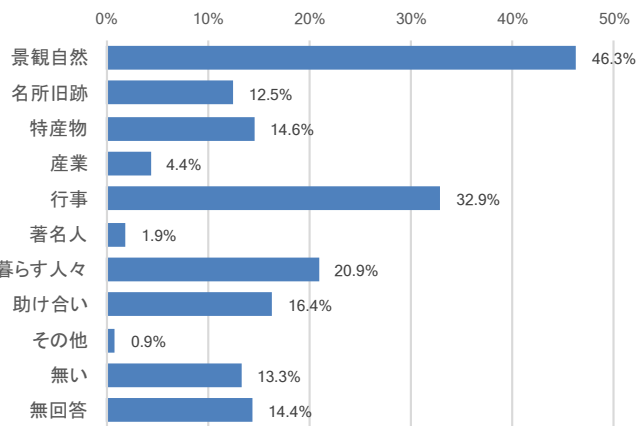
40代→10代
50代→20代

地区平均よりも愛着は高め

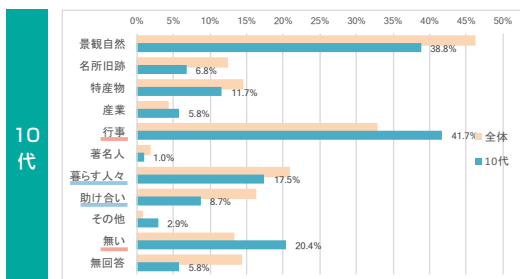
「愛着がある」は56.8%

誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

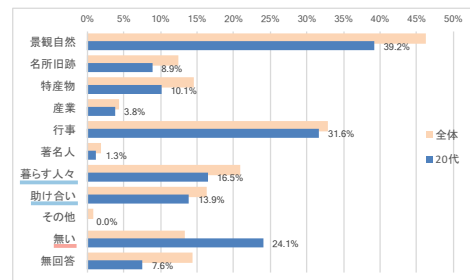
地区全体 (複数回答)



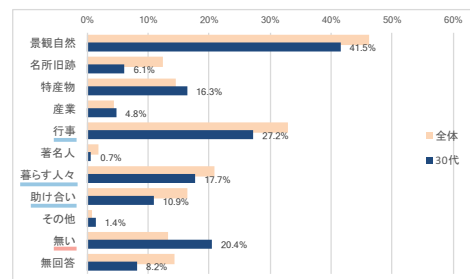
— 地区平均よりも高い
— 地区平均よりも低い



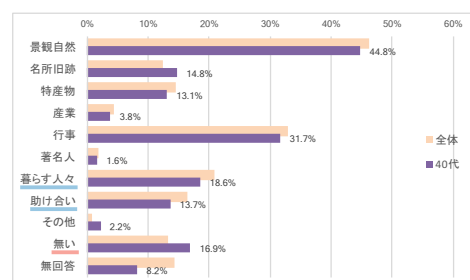
20代



30代

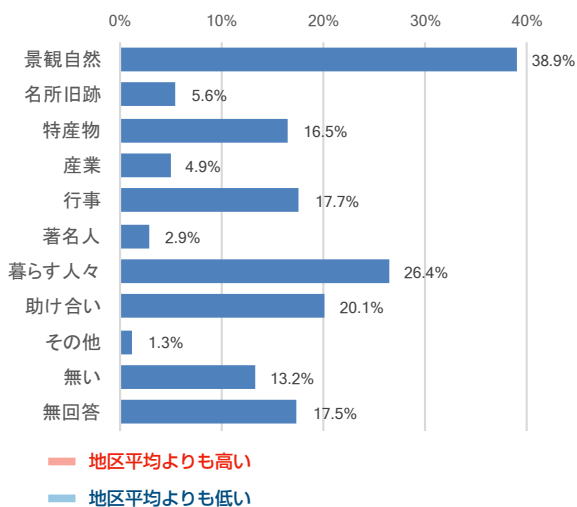


40代

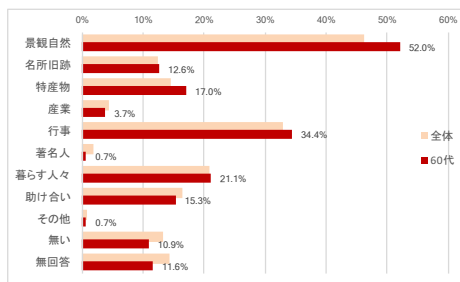


誇りに思う地域資源は何か (50代~)

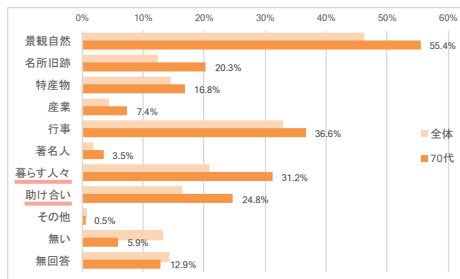
地区全体 (複数回答)



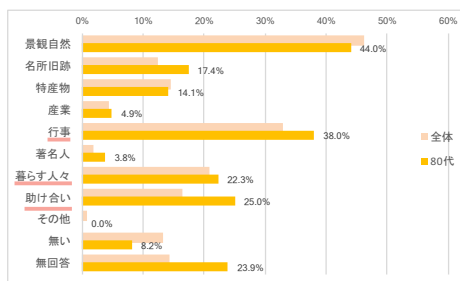
60代



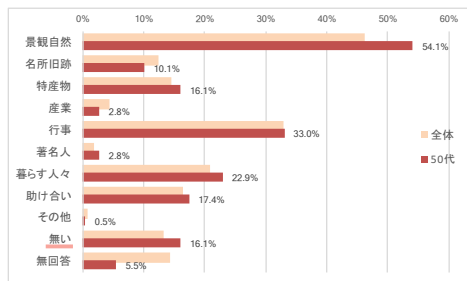
70代



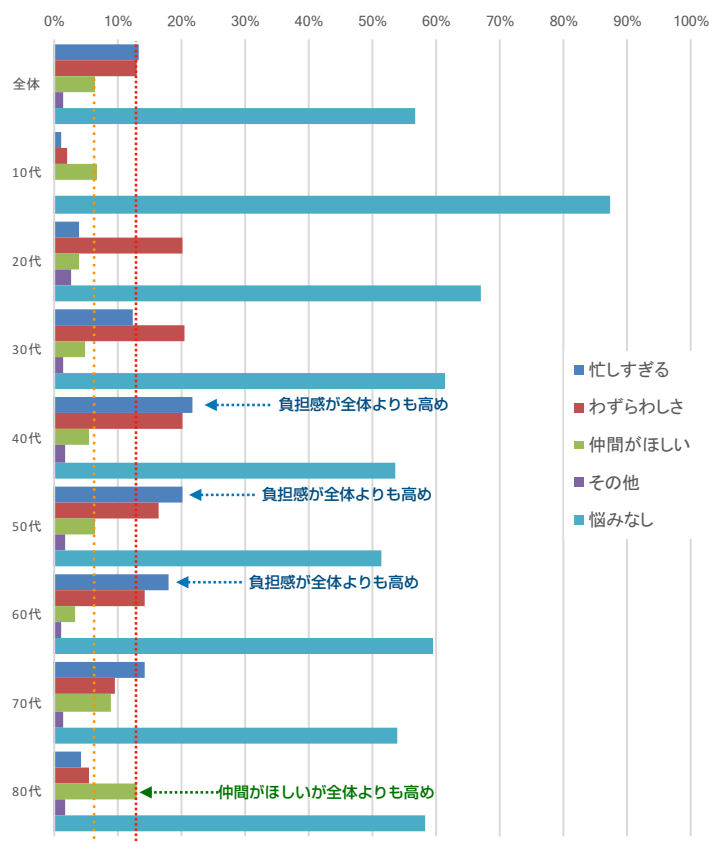
80代



50代

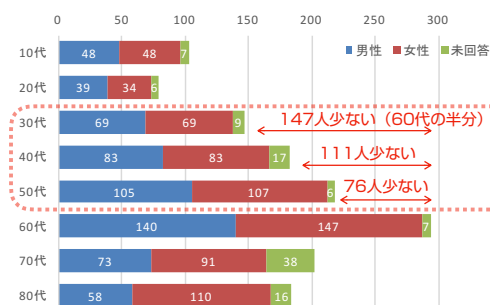


近所づきあいでの悩み



- 全体の6割近くが「**悩みなし**」
- 40~60代は「**忙しすぎる**」という悩みが、80代は「**仲間がほしい**」という悩みが、全体平均よりも高い。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わってなければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなるのでは？

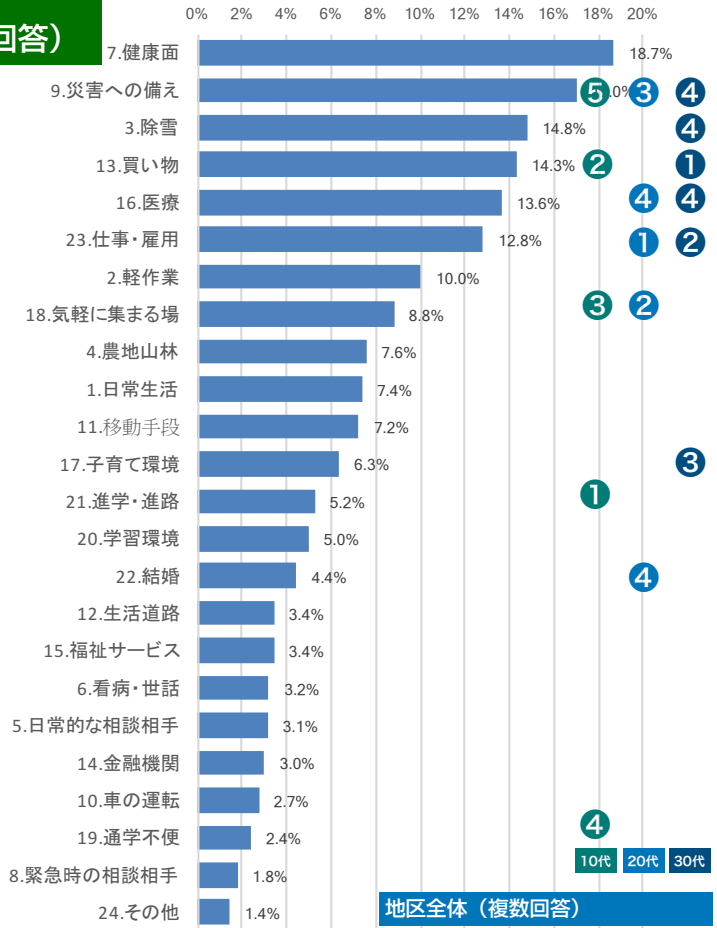


暮らしの中の困りごと（複数回答）

10代		
1	進学・進路	41.7%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	22.3%
3	仲間と気軽に集まる場所がない	15.5%
4	学校が遠く、通学が不便である	9.7%
5	災害への備えや避難	8.7%

20代		
1	仕事・雇用	31.6%
2	仲間と気軽に集まる場所がない	21.5%
3	災害への備えや避難	20.3%
4	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	19.0%
	結婚	19.0%

30代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	21.1%
2	仕事・雇用	18.4%
3	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	15.6%
4	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	14.3%
	災害への備えや避難	14.3%
	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	14.3%



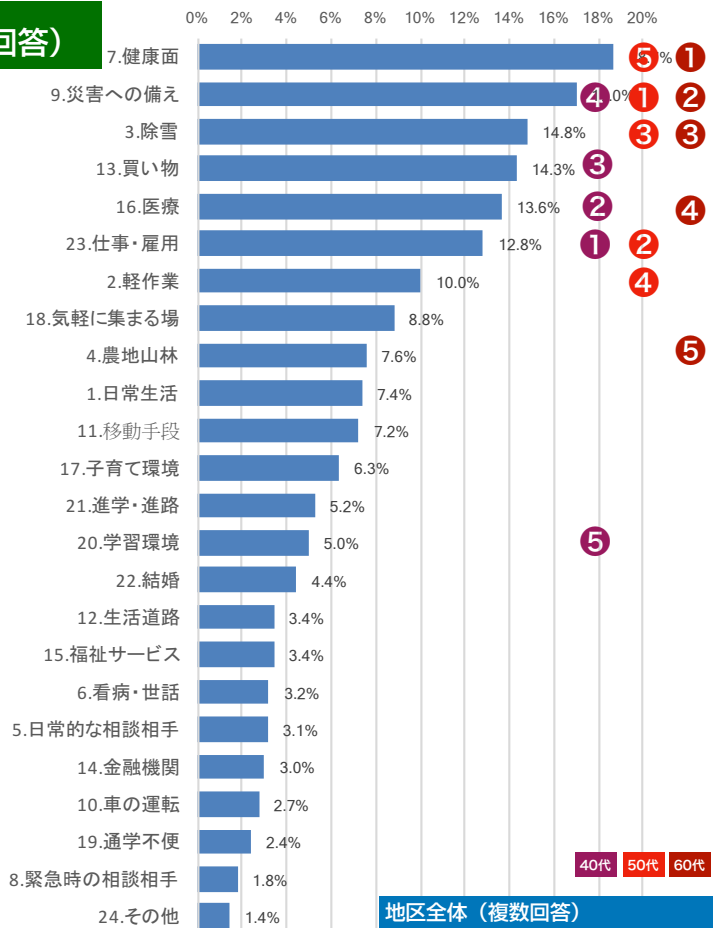
地区全体（複数回答）

暮らしの中の困りごと（複数回答）

40代		
1	仕事・雇用	27.3%
2	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	21.3%
3	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	16.9%
4	災害への備えや避難	12.6%
5	小学校・中学校が少人数であり、学習面の競争が少ないので不安なこと	12.0%

50代		
1	災害への備えや避難	24.3%
2	仕事・雇用	20.6%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	18.3%
4	庭作業(草取り)、電気器具修理など軽作業	17.4%
5	健康面への不安がある	14.7%

60代		
1	健康面への不安がある	23.8%
2	災害への備えや避難	19.7%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	16.7%
4	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	16.0%
5	農地、山林の維持管理	10.5%

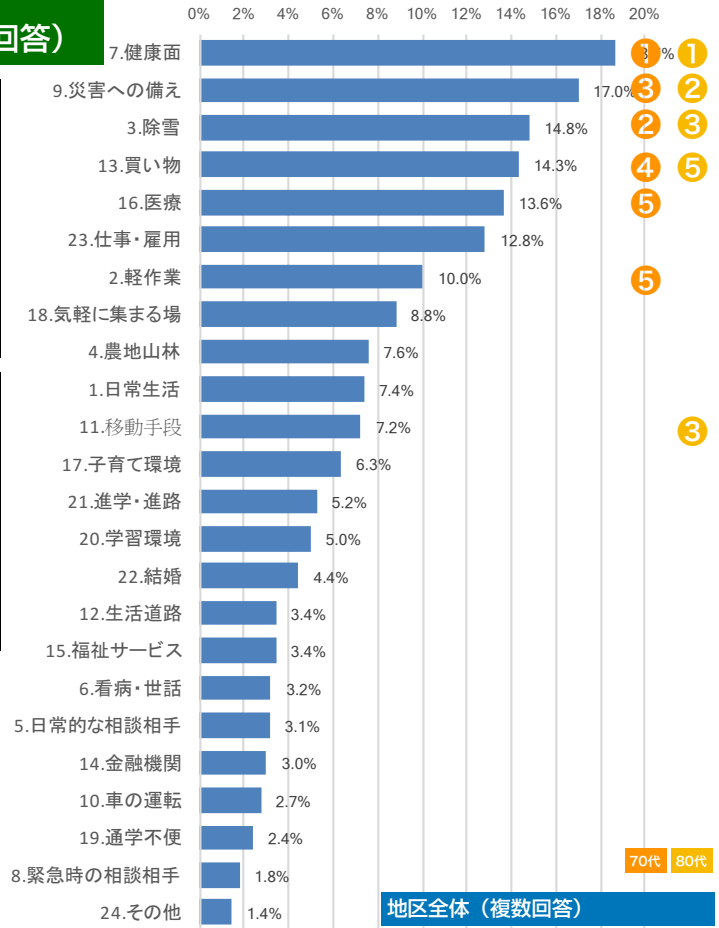


地区全体（複数回答）

暮らしの中の困りごと（複数回答）

70代		
1	健康面への不安がある	32.7%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	19.8%
3	災害への備えや避難	16.3%
4	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	14.9%
5	庭作業（草取り）、電気器具修理など軽作業 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	13.4%

80代		
1	健康面への不安がある	36.4%
2	災害への備えや避難	19.6%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	18.5%
4	買い物・通院などの移動手段（交通手段）	18.5%
5	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	15.2%



暮らしの中の困りごと（まとめ）

第1位 健康面への不安がある 18.7%

60・70・80代でトップ

→自分の健康について不安視している人が多い

第2位 災害への備えや避難 17.0%

すべての世代で上位にランクイン

→世代間の違いは無く、地域共通の課題として認識されている

第3位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 14.8%

50代以降で上位にランクイン

→年代があがるに伴い、困りごととして認識される

第4位 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便。 14.3%

10・30・40代、そして70・80代で上位にランクイン

→30・40代は利便性を求めている結果であり、

10・70・80代は交通手段の確保が影響しているのでは？

暮らしの中の困りごと (まとめ)

全体での順位は高くはないが、若者・中堅世代特有の困りごと

トップ3には入っていないが、要注意な困りごと

第6位 医療 13.6%

幅広い世代でランクインしている中で、40代では第2位

第6位 仕事・雇用 12.8%

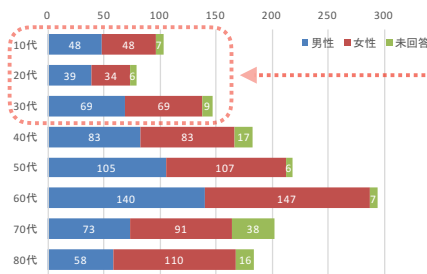
20~50代ではこれが上位にランクイン (1位もしくは2位)

第8位 仲間と気軽に集まる場所がない。 8.8%

10~20代で上位にランクイン (20代では第2位)

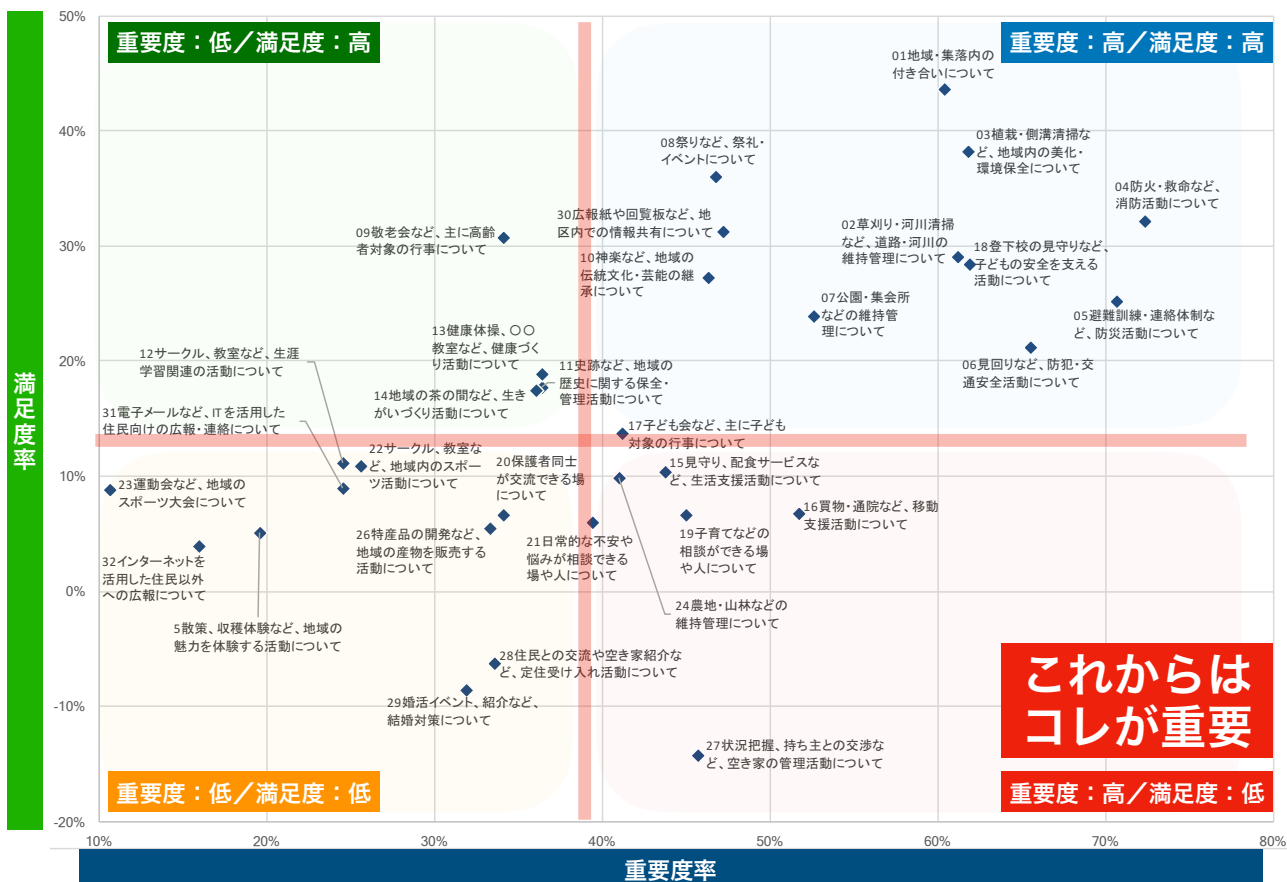
第11位 買い物・通院などの移動手段 (交通手段)。 7.2%

80代のみこれが上位にランクイン

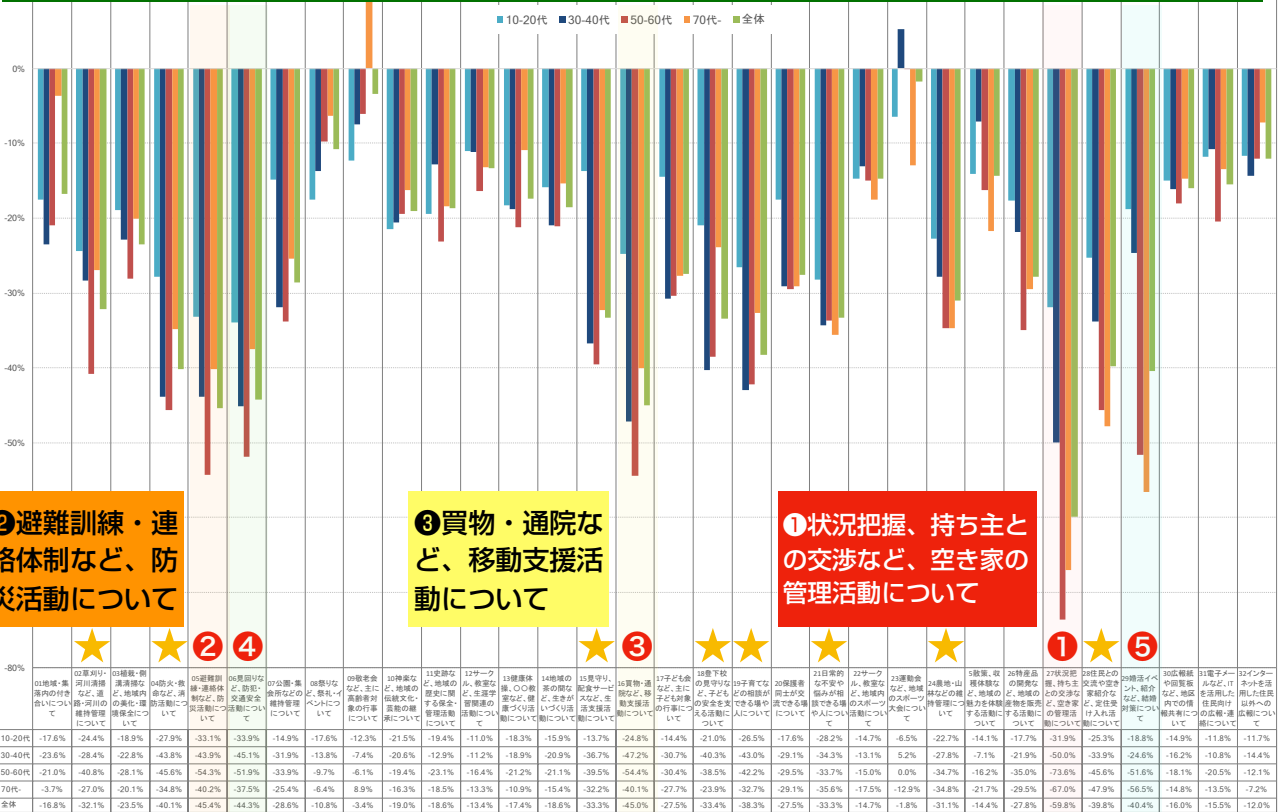


若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！

取り組みの満足度と重要度



取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）



④見回りなど、防犯・交通安全活動について

⑤婚活イベント、紹介など、結婚対策について

※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）項目

取り組みの満足度と重要度の評価（まとめ）

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について

50代以上は圧倒的に将来に向けてこれが大切だという評価。

②避難訓練・連絡体制など、防災活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

③買物・通院など、移動支援活動について

30～60代は特に最もこれを求めている。

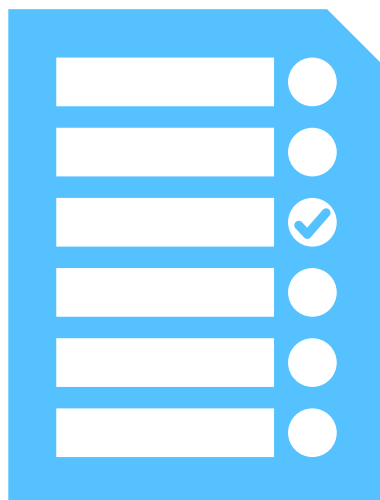
④見回りなど、防犯・交通安全活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

⑤婚活イベント、紹介など、結婚対策について

70代以上はこの必要性を強く感じている。

◎将来を見据え、力を入れていくべきだと考えられている項目



【30～60代が重要だと思っているもの】

★防火・救命など、消防活動について

★子育てなどの相談ができる場や人について

★見回りなど、防犯・交通安全活動について

★見守り、配食サービスなど、生活支援活動について

【50代以上が重要だと思っているもの】

★草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理について

★農地・山林などの維持管理について

★特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について

【すべての世代で重要だと思っているもの】

★日常的な不安や悩みが相談できる場や人について

アンケート結果から見えるポイント①

☑農業従事者の87.5%が60代以上。

▶ 20年後は40人程度!?

将来的に農地の維持管理はどうする？

☑80代になると車を運転する人の割合が減少。(70代→80代 男性は33%、女性は50%減少している)

▶ 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。

将来への備えとして、移動支援を今から考えていく必要はあるのではないか？

☑高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

▶ すでに80代の困りごとの上位には「買い物・通院などの移動手段（交通手段）」が上がっている。

▶ 今後取り組むべき重要テーマとしても第3位に移動支援が上がっている。

☑全体の半数以上がインターネットを利用

▶ 40代以下は約9割（50代でも8割）がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

アンケート結果から見えるポイント②

☑必ずしも「地域活動に参加していない=関心が無い」という訳ではない。

- ▶ 「関心があっても参加していない」と回答した割合が最多。
- ▶ 現状は「50代男性」「60代男性・女性」「70代男性・女性」が頑張っているので回っている状態。
- ▶ 「関心あり+不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した10~50代は、8割がこれを理由にあげている。
- ▶ 「関心なし+付き合いで参加」の理由では、第2位に「頼まれた」が来ている。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性は十分にあるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

☑20・30代は男女ともに、「関心は無く、参加したいと思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

参加していない人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？

☑中堅世代は、もっと自分たちの声を反映してほしいと思っている。

- ▶ 30代男性、40~60代は「必要」という割合が地区平均よりも高く、特に40・50代男性は約7割に達している。
- ▶ 役員を担っている世代（60代男性）も「必要」と考えている割合は高い。

声を反映させる場・機会の充足が必要?!

アンケート結果から見えるポイント③

☑移住・定住者の受け入れが必要と考えている割合は約4割

- ▶ 特に40・50代は半数以上が必要と回答。

必要性は薄々感じているが、今ひとつ実感が無い…という状態か？

☑他地域との交流の必要性については、地域全体では1/3以上が「わからない」

- ▶ ただし、「必要」という考えもほぼ同じ割合。。

☑「この地域に住み続けたい」と考えている人の割合は全体では半数以上。

- ▶ ただし10~40代は地区平均より低く、中でも10・20代は地区平均の半分以下！

10・20代の定住意向、が他の世代と比べてかなり低いことと関連があるのでは？

☑「自分の子どもにも住み続けてほしい」と思っている人の割合は全体の4割強。

- ▶ 地域全体では「住み続けてほしい」が約4割。
- ▶ 40代以下は「思わない」「わからない」が上回っており、子育て中の親世代（30・40代および50代女性）の「住み続けてほしい」の割合は地区平均以下。

【注意！】
このままだと、人口減少（流出）はさらに進行する可能性があるのでは？

アンケート結果から見えるポイント④

☑「地域への愛着がある」と回答したのは約5割強。

- ▶ ただし、30代以下、40・50代女性の地域への愛着は地区平均よりも低い。（中でも30代は最も低い）



親世代の愛着度が、
子に影響？

☑近所づきあいについては、6割近くが「悩みなし」。

- ▶ ただし、40～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりもわずかに高い。



人は減っているのに、役割・
仕事量が変わっていなければ、
負担感が増すのは当然。
今後、さらに人の数は減っ
ていく。このままでは回ら
なくなる可能性大。

☑暮らしの中の困りごとトップ3は、

- ①健康面への不安がある
- ②災害への備えや避難
- ③屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪

- ▶ ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。（特に若年層）



困りごとの内容をさら
に深掘りしていく
ことが必要。

若年層は少数派であ
ることを十分に認識
し、丁寧に扱うこと
が求められる。

アンケート結果から見えるポイント⑤

☑今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ②避難訓練・連絡体制など、防災活動
- ③買物・通院など、移動支援活動
- ④見回りなど、防犯・交通安全活動
- ⑤婚活イベント、紹介など、結婚対策

- ▶ ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。



困りごとの内容をさら
に深掘りしていく
ことが必要。

若年層は少数派であ
ることを十分に認識
し、丁寧に扱うこと
が求められる。